

# 「新潟JAPAN-GTL実証プラント」 の竣工、実証運転を継続中

日本GTL技術研究組合\*（理事長：松村副社長）は、JOGMEC（独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構）と共同で新潟市に建設していたGTL実証プラント（500 バレル/日：約80 キロリットル）の完成に伴い、4月16日に竣工式を執り行った。

GTLは天然ガスを原料に石油製品を製造する技術で、液体燃料ソースの確保と多様化を可能にする極めて有効な手段である。また、製造されるGTL油は、硫黄分や芳香族分などを含まないため、環境に優しいクリーン燃料として期待されている。今回実証するJAPAN-GTLプロセスは天然ガス中に含まれる炭酸ガスを原料として利用できる世界初の画期的な技術である。

実証プラントは竣工式の後、約2ヶ月の運転調整期間を経て、6月中旬には日産500バレルのGTL油の製造を達成し、現在も各種データ取得のための試験運転を継続中である。

この実証研究は2010年度まで実施され、この間に得られるデータを基に、技術的、経済的に商業規模で利用可能なGTL技術を確立し、日本のエネルギーの安定供給と地球環境の調和の実現に向け取り組んでいく。

（研究開発企画部 UCF グループ 佐藤 幹基）

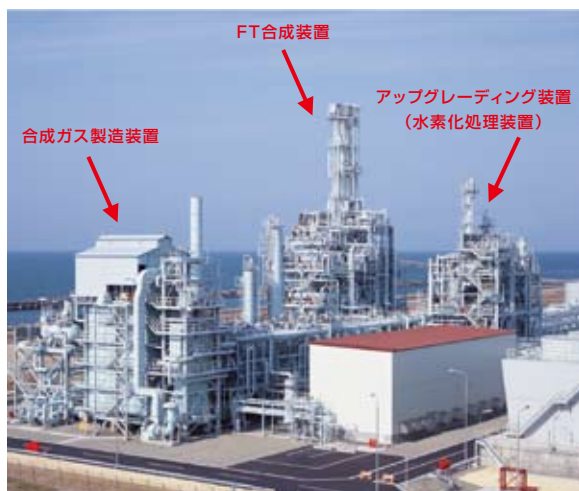
※ 2006年10月25日に経済産業大臣の認可を得て、国際石油開発(株)（現、国際石油開発帝石(株)）、新日本石油(株)、石油資源開発(株)、コスモ石油(株)、新日鉄エンジニアリング(株)、千代田化工建設(株)の6社により設立。GTLはGas to Liquidsの略。

## <新潟GTL実証プラントの概要>

1. 所在地：新潟市北区太郎代 2881-45
2. 生産能力：日産500バレル（80キロリットル）
3. 主要プロセス設備
 

・合成ガス製造設備	<ライセンサー> 千代田化工建設
・FT（フィッシャー・トロプシュ）合成設備	新日鉄エンジニアリング
・アップグレーディング設備（水素化処理設備）	新日本石油

## 4. JAPAN-GTLプロセスの製造フロー



「新潟 JAPAN-GTL実証プラント」の主要プロセス設備



写真左から 久保田社長（千代田化工建設）、木村社長（コスモ石油）、西尾社長（新日本石油）、篠田市長（新潟市）、松村副社長（GTL組合理事長）、保坂課長（経産省）、河野理事長（JOGMEC）、神保副知事（新潟県）、黒田社長（国際石油開発帝石）、渡辺社長（石油資源開発）、羽矢社長（新日鉄エンジニアリング）